

- 問1 オーストラリアの貿易における近年の状況と、その背景を説明したものとして最も適切なものはどれか。 (2023年 長崎県公立入試 類似)
1. 北米自由貿易協定 (NAFTA) に加盟したことで、最大の貿易相手国が中国からアメリカ合衆国へと変化した。
2. 現在も旧宗主国であるイギリスとの貿易が経済の柱であり、農産物の輸出先の約8割をヨーロッパ諸国が占めている。
3. 熱帯雨林が国土の大部分を占める自然環境を活かし、木材の輸出を主軸とすることで、東南アジア諸国との貿易額が急増している。
4. かつての宗主国であるイギリスに代わり、現在は地理的に近いアジア諸国との結びつきを強め、中国が最大の貿易相手国となっている。
- 問2 世界有数の農業国であるブラジルでは、サトウキビなどの農作物を原料とした燃料の利用が拡大しています。石油などの化石燃料の代替として注目されている、このエネルギー資源の名称として正しいものはどれですか。 (2023年 長崎県公立入試 類似)
1. バイオ燃料
2. 天然ガス
3. シェールガス
4. 液化石油ガス
- 問3 南アメリカ大陸のチリ中部に位置する都市サンティアゴの気候の特徴について、正しい説明を述べているものはどれですか。 (2018年 福岡県公立入試 類似)
1. 大陸北部の低緯度地帯に位置し、一年中気温が高いが、雨季と乾季がはっきりと分かれるサバナ気候に属している。
2. 赤道直下に位置するため一年を通じて高温多雨であり、季節による降水量の変化がほとんどない熱帯雨林気候に属している。
3. 南回歸線付近の大陸東岸に位置し、1月頃の夏に降水量が多く、一年を通じて温暖な温暖湿潤気候に属している。
4. 南半球の中緯度に位置し、1月頃の夏に乾燥し、7月頃の冬に雨が降る地中海性気候に属している。
- 問4 世界の諸地域における人口構成の変化について、イギリスとブラジルの予測される傾向を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2017年 埼玉県公立入試 類似)
1. イギリスは先進国であるため、2010年から2035年にかけて、新興国であるブラジルよりも生産年齢人口の割合と実数の両方が大幅に減少する。
2. イギリスでは、総人口の増加などの要因により、2035年時点の生産年齢人口が2010年時点の実数よりも多くなると予測されている。
3. ブラジルでは2035年に向けて老年人口が急増するため、生産年齢人口の割合が、年少人口と老年人口を合わせた割合を下回るようになる。
4. ブラジルでは、2035年になっても年少人口割合が1985年当時の水準である約37%を維持し、若者の多い人口構成が続くと予測されている。
- 問5 2016年にリオデジャネイロで夏季オリンピック・パラリンピックが開催されましたが、この都市が含まれる大陸の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。なお、この大会はその大陸で初めて開催された夏季大会です。 (2024年 山口県公立入試 類似)
1. 南アメリカ大陸
2. ユーラシア大陸
3. アフリカ大陸
4. オーストラリア大陸
- 問6 南アメリカ大陸のブラジルやオセアニアのオーストラリアは、広大な国土を持ち、ある鉱産資源の生産量が世界的に見て上位にあります。製鉄の重要な原料として利用されるこの資源の名称を答えなさい。 (2015年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 原油
2. 石炭
3. ボーキサイト
4. 鉄鉱石
- 問7 南アメリカ大陸西部の高地で見られる、標高に応じた多種類のじやがいもの栽培や、家畜の毛を利用した重ね着という生活様式が成立している理由として、現地の自然環境をふまえて説明したものを選びなさい。 (2024年 埼玉県公立入試 類似)
1. 偏西風が山脈にぶつかることで風下側が乾燥し、農耕に適した土地が限られている中で効率的に食料を確保するため。
2. 赤道直下の熱帯地域に位置しており、年間を通じて降水量が非常に多く、土壌の養分が流れやすい環境にあるため。
3. 標高が高くなるにつれて気温が低下し、また平地よりも直射日光が強くなるという、高地特有の気候条件に対応するため。
4. 海流の影響で沿岸部に冷涼な霧が発生しやすく、日照時間が短いため家畜の体温を維持する工夫が必要だから。
- 問8 アルゼンチンの首都ブエノスアイレス周辺に広がる広大な平野「パンパ」の農業と気候の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。なお、この地域は1月頃に気温が高く7月頃に低くなる季節特性を持ち、年間を通じて安定した降水量が見られる地域です。 (2019年 神奈川県公立入試 類似)
1. 地中海性気候に属しており、夏の乾燥に強いオリーブやぶどうの栽培が盛んである。
2. 熱帯の気候を活かし、広大なプランテーションでコーヒーや天然ゴムの栽培が行われている。
3. 温暖湿潤気候のもと、広大な土地を活かして企業的な牧畜や小麦の栽培が行われている。
4. 乾燥した気候のため、地下水路を利用してわずかな土地で綿花や大麦を栽培している。
- 問9 オーストラリアの貿易相手国の変遷をまとめた統計によると、1960年代には主要な相手国であったイギリスの割合が大きく減少する一方で、近年では日本や中国などのアジア諸国の割合が極めて高くなっています。このようなオーストラリアの国際関係の変化について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 沖縄県公立入試 類似)
1. 地理的に近いアジア諸国との経済的な結びつきや人的交流を重視する姿勢を強めている。
2. かつての宗主国であるイギリスとの経済的な結びつきをより強める方針に転換した。
3. 自国の工業製品を輸出することを目的として、欧米諸国とのみ自由貿易協定を結んでいる。
4. ヨーロッパ諸国との貿易を維持するため、アジア諸国からの農産物の輸入を厳しく制限している。
- 問10 アマゾン河流域には広大な熱帯林が広がっているが、近年の急速な開発による環境への影響が懸念されている。この地域の現状と課題についての記述として最も適切なものはどれか。 (2019年 北海道公立入試 類似)
1. 酸性雨による森林の立ち枯れが深刻化しており、排ガス規制が強化されている
2. 過度な放牧により土壌が流出しやすくなっており、永久凍土の融解も懸念されている
3. 農地や牧場の造成、鉱山開発などのために森林伐採が進み、持続可能な開発が求められている
4. 砂漠化の進行を食い止めるため、外来種の植物を用いた緑化が進められている
- 問11 オーストラリアの産業構造の変化と、その背景について述べた説明として最も適切なものはどれですか。 (2025年 岐阜県公立入試 類似)
1. かつては輸出の首位であった羊毛に代わり、アジア諸国の工業化に伴う需要増を受けて、鉄鉱石や石炭が最大の輸出品目となった。
2. 1960年代から現在に至るまで一貫して石油の輸出が経済を支えており、羊毛や綿花といった農産物の輸出は衰退した。
3. もともとは鉄鉱石などの鉱産資源の輸出が中心であったが、現在は広大な土地を利用した天然ゴムの生産が世界一となり、輸出の大部分を占めている。
4. イギリスとの経済的な結びつきが強まった結果、2010年代以降は石炭などのエネルギー資源の輸出をやめ、高級な羊毛製品の輸出に特化している。